

## 答辞

野山の雪も溶け始め、教室に差し込むうららかな日差しに春を感じる季節となりました。本日、3月9日にわたくしたち170名が卒業できることは、あたりまえではなく、尊いものであると心に刻まなければなりません。本日ご出席を賜りましたご来賓の皆様、卒業式を設けてくださった校長先生はじめ先生方、保護者の皆様に、卒業生一同、御礼申し上げます。

3年前、新しい制服に身を包み、桜の樹の下で、家族と写真に収まったわたくしたちは、とても晴れやかな表情でした。新しい教室、新しい友達。うまくなじめるか不安でしたが、春の遠足やドッジボール大会を通してどんどんクラスメイトと打ち解けていきました。1年生の教室にはいつも、マスク越しに元気いっぱい、みんなの声が響き渡っていました。

2年生になり、部活動では、新しい顔ぶれも加わり、先輩となりました。吹奏楽部で1人パート練習をしていた私にとって、こんなに嬉しいことはありませんでした。試合や大会では、思うような結果が出ず悔しい日もありましたが、目標に向かって頑張りました。よいときも、そうでないときも、仲間がいてくれたから「また、がんばろう」と思うことができました。

いよいよ最高学年になり、様々なことに不安と期待を抱きながら、3年生としての1年間が始まりました。**新緑鮮やかな5月**。待ちに待った修学旅行です。京都の町並み、奈良の鹿や大仏、神戸の海風や夜景にも触れ、充実した2泊3日になりました。特にUSJでは思う存分に遊びました。ホテルでカードキーを部屋に忘れて閉め出された人、シャワーで熱いお湯しか出せずに叫んでいた人なども、今ではいい思い出です。

部活では、最後の大会が近づき、私は、より一層吹奏楽に打ちこんでいました。**梅雨明けぬ7月**、豪雨が津幡町を襲いました。玄関に迫っている黒い濁流を見たとき、恐怖で震えました。コンクールは目前に迫っていましたが、ボランティアの方々のご支援、学校や役場の方々のご尽力のおかげで部活に集中することができました。最初で最後の県代表に選ばれ、一人では見ることができない景色をみんなで見られたこと、一生忘れません。引退まで導いてくださった先生、部員の送迎や差し入れ、休日の練習のためのお弁当など、サポートしてくださった保護者の皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。

**残暑が続いた9月**、みんなが熱くなる運動会がやってきました。どの団も、目指すは4冠。「達磨壺華」、「風神翠龍」、「鯨極海神」、「獣王雷霸」、「紫迅獣霸」の名のもと、競技に取り組み、立ち上がって大声で応援しました。一番力を入れ一生懸命に取り組んだアピールタイム。夏休み明けから必死にダンスを覚え、試行錯誤を繰り返しました。他の団の練習を見ては、隣の芝が青く見え、自分たちのパフォーマンスはこれでいいのか？と不安に思うこともありました。けれど本番が近づくにつれて、ダンスが揃い、声も出せるようになりました。青空の下で思いっきり笑った運動会はまさに青春で、最高の思い出です。

空気が澄む10月、文化祭。合唱コンクールの練習を始めた頃は、コロナ禍が長かったこともあり、大きな声で歌うことを忘れかけていました。しかし、練習を積み重ね、自分たちなりに精一杯ハーモニーを響かせました。また、生徒会は「歌の力」をテーマにした寸劇を企画しました。とても緊張しましたが、先生方のサポートや、「がんばれ！」という友達の声で、無事成功させることができました。秋とともに絆がより一層深まっていきました。

こうして振り返ると、この3年間はあっというまでした。すべてがかけがえのない思い出ばかりです。中学校生活は、わたくしたちの力だけではなく、周りの方々の支えや応援で成り立っていたのだと、今、改めて思います。

支えてくださった先生方。勉強で分からないところがあると、分かりやすく教えてくださいました。進路の相談では、親身に話を聞いてくださいました。いつも、出来立ての美味しい給食を作ってくくださった調理員さん。私は毎日、お昼が楽しみでした。今までわたくしたちの指導やサポートをしてくださった全ての先生方、本当にありがとうございました。

在校生のみなさん。今日この場に一緒にいられないのが残念ですが、部活や運動会などを一緒に盛り上げてくれてありがとう。楽しい思い出ができました。

一緒に卒業するみんなへ。くだらない会話と爆笑した日々。とても幸せでした。今では、どんな会話であんなに笑ったかなんて覚えていないけれど、休み時間、授業、放課後にたくさん笑い合いました。みんなと離れるのはとてもさみしいけれど、新しい場所でもがんばろうね。今までありがとう。

家族へ。いつもわたくしたちを後押ししてくれました。意見が食い違い、反発した日もありました。でもこんな日常は決して当たり前ではなく、奇跡の毎日なんですね。生まれたときから愛情を注いでくれたから、ここまで成長できました。これからは、自分が選び取った場所で、誰かを支えられる人になります。わたくしたちは、この通り慣れた学び舎から巣立っていきます。未来という空に向かって飛び立ちます。道の途中で羽を休めるときもあるかもしれません。しかし、津幡中学校で過ごした日々を胸に、困難を乗り越え、目標や夢に向かって進んでいきます。わたくしたちが、立派な大人になれるまで見守っててください。

最後に改めて、泉校長先生はじめ、すべての教職員の皆様、地域の皆様、家族があつて、わたくしたちは本日、こうして卒業の日を迎えることができました。3年間、支え、導いてくださった全ての方に卒業生一同心より感謝申し上げます。皆様のご健康と、津幡中学校のさらなる発展を願い、答辞と致します。

令和6年3月9日 卒業生代表 北口 美羽

